

音楽の趣味趣向が違うからこそ面白い！

サークルを挙げての合同練習はなく、練習は大抵それぞれのバンドがスタジオを借りて行っているとのこと。学内外で企画されるライブにその都度、興味のある人が参加する柔軟な活動姿勢は、メンバーの多様性を生みます。当然、音楽の嗜好も実に多彩で、それぞれに個性的。「サークルの先輩の影響から、最近になってボーカルのないインスト音楽の魅力に目覚めました。いずれは自分でライブを企画してみたいですね」と語るのは、ドラムの深堀さん。浅井さんは思いの向くままマルチに音楽を楽しむタイプで「ジャズも聴きますし、クラシックではラフマニノフなどのピアノ曲が好きです。映画音楽家のコンサートに行ったこともあります」と、ジャンルを選びません。邦ロックも洋楽も好きという渡邊さんがお気に入りに掲げるのは、新潟発の“スリーピースバンド”、“マイヘアーイズバッド”。ボーカル&キーボード



渡邊さんも参加した、新入生がライブをお披露目する「新入生ライブ」の記念写真。感染対策も徹底しながら盛りあげられました。

の笹川さんは嗜好がとりわけはっきりしていて、古きよき“ロックンロール”が大好きだと言います。「ボウイやジギーの楽曲をよく聴いていて、布袋寅泰さんのライブには毎年足を運んでいます。洋楽ではデスメタル系の楽曲も好きですね。同世代の仲間になかなか趣味の合う人がいないのが悩みどころですが(笑)」。

そんな笹川さんも最近組んだバンドでは、シンガーソングライターとして近年人気を博す“あいみょん。”のボーカルを担当。音楽の趣味は違うのが当たり前。それぞれの個性を尊重しながら、違う個性同士が合わさってこそ生まれる化学反応を楽しむ——。そんな、枠に捕らわれない音楽の楽しみ方も、ウエスタンクラブの特色といえそうです。

さらなる飛躍を期して、それぞれが目標に向かって突き進む

他校の仲間とともに、部員それぞれが活動的にライブを行っているウエスタンクラブ。とはいえ、コロナ禍ではやはり人員が減ってしまいました。新入部員の勧誘が喫緊の課題だと部長の浅井さんは言います。「いま、積極的に参加している部員は10人ほど。こんな時代だから仕方がないという見方もできますが、もっと多くの人にライブ活動を楽しんでほしい。新入生には、経験者、未経験者問わず、意思さえあればとことんライブへ参加できるウエスタンクラブの魅力を伝えていきたいです」。そんな浅井さんを、後輩の笹川さんは「部長としてとても精力的に動いてくれています。定期的にZOOMで部会を開いてくれたり、右も左もわからない1年生をいつも気に掛けてくれる頼もしい先輩です」と評し、「私もできることをサポートしていきたいです」と続けます。

そんなウエスタンクラブは、2022年9月に開催された本学の軽音楽6サークルで演奏を競う「バンドフェスティバル」にて、見事に同点第2位を受賞。渡邊さんは「大きな舞台で演奏できたのはいい経験になりました。2位の受賞は嬉しいですが、コロナ禍の影響でお客さんが少なかったのも、ぜひ次はもっとお客さんを呼び込みたい」と、早くも次に向けた意欲を語ります。「まだまだ演奏のテクニックを高める余地があるので、練習に打ち込みたい。他校との交流にも今まで以上にやり組んでいきたいです」というのは深堀さん。広報のために、ライブの様だけでなくミュージックビデオ風の動画を自分たちで撮影しようという話も進んでいるそうです。コロナ禍の逆境にもめげず、未来へと目を向けるウエスタンクラブの部員たち。今後のさらなる活躍が期待されます。



「バンドフェスティバル」の会場となった、渋谷・道玄坂のライブハウス「ギルティ」前にて。



南青山のライブハウス「月見ル君想フ」で行われた「引退ライブ」の様。4年生中心のイベントでしたが、深堀さんもバンドに参加しました。